職 業 奉 仕 委 員 会

委 員 長　**加　藤　和　理**
副委員長　**辻　　隆　志**

世界経済は、ノーベル賞受賞者ミルトン・フリードマンに代表される株主資本主義に支配されている。曰く、「企業は株主のものである」、「経営者は株主の雇用者であるから社会的責任は一つしかない・・株主の為にできるだけ多額の金を儲けることである。これが道徳的義務である」、「企業の社会的責任が容認される場合が一つだけある。それが利益追求のための方便である時だ。環境保全対策は自分の金でするのは良いが、株主の利益を損なう経営をしてまで追求するなら、彼は非道徳的だと思う」・・

要するに金儲けの為なら、法に触れない限り何をしてもよいと言うのだ。

何故ノーベル財団はこれを選んだのか甚だ疑問である。

ここでいう企業は大会社（株式公開会社＝資本と経営が別）のことである。その株主は自分の資産を増やすために株を買っているのだから、会社の行く末がどうなろうとより多くの利益を要求する。この様な世界ではロータリーの職業奉仕理念は無力というしかない。

職業奉仕理念はロータリーの発生史から見てもそれは中小企業の論理である。100余年前、今と同じように資本家が世界を牛耳っていた時、中小企業者がいかに生き延びるかを色々模索した中から生まれたといってよい。

1929年からの世界恐慌の際、ロータリアンの企業は１件の倒産も無かったと言われている。

全企業の90％は中小企業である。ロータリアンの大多数は中小企業経営者であろう。

職業奉仕理念は中小企業者にとって非常に有効な武器と言えよう。中小企業ではその多くが株式非公開企業（＝株式譲渡制限、資本と経営が同一）である。大会社では資本と経営が別なので難しいが、中小企業では理念を徹底しやすい。

長年、職業奉仕は分り難いと言われ続けてきました。そこで今年度は分かりやすい基本的な事から始めたいと思います。

■基本方針

今年度夏見ガバナーの意向もあり、「四つのテスト」を中心に再認識を図る。

■実施計画

１．職業奉仕に関連するフォーラムの実施。
２．ゼミ風ＦＳＭを実施してみたい。
３．職場例会の実施。